

* 2022年 9月（第7版）

* 2017年 6月（第6版） 新記載要領に基づく改訂

医04 整形用品 高度管理医療機器 体内固定用プレート 35241003

体内固定用ネジ 16101003

体内固定用ナット 32847003

体内固定用ワッシャ 36198003

ジンマー プレート&スクリュー システム

再使用禁止

- * **【禁忌・禁止】**
【禁忌（次の患者には適用しないこと）】
- ・破片骨折や重度の粉碎骨折の患者
 - ・金属アレルギー又は金属不耐性が認められる患者
 - ・感染様症状が認められる患者
 - ・重度の骨減少、骨粗鬆症、著しい又は急速な骨吸収、代謝性骨疾患、癌又はその他固定を妨げるような骨の腫瘍性状態の認められる患者
 - ・胸骨、脊椎骨折又は欠損の患者
 - ・一時的内固定材料が神経、血管又はその他の生体構造などの重要な構造と干渉するような解剖学的位置に使用する患者
 - ・埋植部位に十分な被覆組織のない患者
 - ・診断未確定の感染症、末期の悪性疾患又はその他の疾患等の手術の有効性を妨げる内科的又は外科的状況では本システムを使用しないこと。
- 【禁止】**
- ・再使用禁止
 - ・弊社が指定した製品以外との併用はしないこと【相互作用の項参照】。

** 【形状・構造及び原理等】

本添付文書に該当する製品の製品名、製品番号、サイズ等については包装表示又は本体に記載されているので確認すること。

製品名	製品外観
ブリッジプレート	
ストレートリコンストラクションプレート	
カーブリコンストラクションプレート	
ストレートミニプレート	
ミニコンディラープレート	
コンプレッションプレート	
ナローコンプレッションプレート	
ブロードコンプレッションプレート	
スプーンプレート	

製品名	製品外観
コブラヘッドプレート	
ミニH型プレート	
L型プレート	
ミニT型プレート	
T型プレート	
T型プレート 3.5mm	
T型プレートスモールオブリーク	
T型プレート 4.5mm	
T型バットレスプレート	
L型バットレスプレート	
1/4 円プレート	
1/3 円プレート	
半円プレート	
クローバー型プレート	
カルカニールプレート	
カルカニールYプレート	
マルチ骨片プレート	
コーティカルスクリューHex	

手術手技書を必ずご参照ください

製品名	製品外観
コーティカルスクリュー S-TAP Hex	
コーティカルスクリュー十字	
コーティカルスクリュー S-TAP 十字	
コーティカルペルピックス スクリュー	
コーティカルシャフト スクリュー	
マレオラスクリュー	
キャンセラススクリュー Hex	
キャンセラススクリュー パーシャルスレッド	
ボールワッシャー	
ナット	
ワッシャー	

材質：ステンレス鋼

原理：骨折部位にプレート、スクリュー及びナットを使用し固定することにより、骨折部位が整復され癒合する。

【使用目的又は効果】

本品は、骨折治療の骨癒合過程において一時的な骨固定に使用する固定用、圧縮用インプラントである。

** 【使用方法等】

* (1) 使用方法

本品は、未滅菌のため使用前に滅菌して用いること。

＜推奨高圧蒸気滅菌条件例＞

タイプ	最低温度	最短暴露時間	最低乾燥時間
重力置換	121℃	30分	15分
重力置換	132℃	30分	
UKプレバキューム/ パルス真空	134℃	3分	
プレバキューム/ パルス真空	132℃	4分	

滅菌トレイ又はケースを使用する場合

タイプ	最低温度	最短暴露時間	最低乾燥時間
UKプレバキューム/ パルス真空	134℃	3分	30分
プレバキューム/ パルス真空	132℃	4分	
プレバキューム/ パルス真空*	134℃	18分	

※このサイクルはプリオンの不活性化には使用しないこと。

- ・上記条件は滅菌後の製品の無菌性を保証するものではない。滅菌後の製品の無菌性の保証については、各医療機関の責任の下、行うこと。
- ・条件、方法については滅菌器製造業者の取扱説明書の指示に従うこと。

(2)操作方法

- ①術前にレントゲン、CT、MRI 等により骨折の位置、距離、角度を確認し、適切なプレート及びスクリューを選択する。
- ②患部の位置まで切開し、展開する。
- ③選択したプレートを患部に当てがい、スクリュー固定の位置にドリルで下穴を開ける。
- ④ロック穴にスクリューを入れ、ドライバで固定する。
- ⑤術部を閉じる。

** 【使用上の注意】

* (1)重要な基本的注意

- ・関節周囲用プレートを骨幹部骨折治療に使用しないこと。
- ・術後感染症が生じることがある。術前、術中及び術後にわたり感染症の予防処置を十分に行うこと。なお、感染症が発症した場合は、適切な処置を施すこと。
- ・骨の遷延治癒又は骨癒合不全の場合、過度の繰り返しの負荷が発生し骨折が治癒しないうちに生体を通じすべての一時的内固定材料に負荷が伝達される。通常の金属疲労により、これらの負荷は最終的に一時的内固定材料に変形や折損を起こす場合がある。従って骨折部位の固定は確実な骨癒合（臨床検査及びX線撮影により確認される）が、得られるまで継続することが重要である。
- ・転子間骨折又は転子下骨折に一時的内固定材料を使用する場合は特別な注意が必要である。この型の骨折は整復が困難で異常に強い筋力により不均衡が生じる。その結果、他の種類の大腿骨骨折の場合より大きな応力が一時的内固定材料に加わる。このような応力がインプラントの変形や折損の可能性を増大させる。患者にはこれらの危険性を知らせること。患者の骨が癒合するまでは確実な術後管理を行うこと。
- ・この材料の使用法および注意・限界に関する詳細な指示を患者に与えること。堅固な骨癒合が得られる前に部分荷重訓練を推奨する場合には、不具合として材料の変形や折損が起こる可能性があることを、必ず患者に警告すること。活動的あるいは衰弱した患者、あるいは認知症の患者で松葉杖などの体重支持器具を正しく使用できない場合は、術後リハビリテーションの間、特に不具合の危険性が高くなるので注意すること。
- ・一時的内固定材料を繰り返して強く曲げたり、切り込みを入れたり、傷等をつけないこと。患部の骨の形状が利用する一時的内固定材料と適合しない場合や輪郭付けが特に必要である場合は、輪郭付けは徐々に行い、かつ材料の表面に切り込みや傷などをつけないよう細心の注意を払うこと。
- ・術前計画、手術手技の知識、正しい整復、インプラントの適切な選択と設置は、すべての一時的内固定材料の使用を成功させるためには重要であるので注意すること。
- ・一時的内固定材料は骨が癒合するまでの間、骨折部分を安定させるように設計されている。癒合後、材料は機能上の役割を果たさなくなるため抜去すること。これらの材料は正常の活動で生じる力の伝達や荷重支持を目的としているわけではない。これらの材料を抜去しないと次のような不具合が発生する可能性があるため注意すること。また、患者に次の不具合の発生の可能性について説明し理解させること。
 - ①局所的組織反応や疼痛を伴う腐食
 - ②軟部組織や内臓あるいは関節に損傷を与える移動
 - ③術後の外傷から更に損傷を生じる危険
 - ④抜去を困難または不可能にする破損

手術手技書を必ずご参照ください

A263-7

- ⑤材料が原因となって起こる疼痛・不快感・異常感覚
- ⑥感染の危険性の増大
- ⑦ストレスシールドリングによる骨量の低下
- ⑧抜去を困難又は不可能にする仮骨形成

- ・一時的内固定材料の抜去時に再骨折することがある。一時的内固定材料抜去の決定は、再手術によって患者が受けるかもしれない危険性を考慮すること。一時的内固定材料抜去後は、再骨折を避けるための適切な術後管理を行うこと。
 - ・インプラントの組み合わせが不適切である場合は、インプラントの機械的機能及び寿命に悪影響を与える可能性がある。組み合わせるインプラントを選択する場合、機械的な適合性及び金属的な適合性を考慮すること。特定の材料について推奨されるボーンスクリューや、その他器械類の適切な選択に関する情報については、弊社カタログを参照するか弊社に確認すること。
 - ・患者には次の注意事項について、インフォームド・コンセントを十分行うこと〔重篤な不具合、有害事象が発現するおそれがある〕。
 - ・一時的内固定材料は、サイズ、設計、使用する合金等の特性に限界があるため、疲労、変形、折損を受ける可能性があること。
 - ・一時的内固定材料の機能と正常な骨との相違点
 - ・体重及び活動性が一時的内固定材料に与える影響
 - ・術後のあらゆる制限事項について指示を守ること。
 - ・本品を頸椎、胸椎、腰椎の椎弓根部等、脊椎には使用しないこと。
 - ・本品の使用にあたりこの添付文書を事前に十分理解すること。また患者の安全に細心の注意をはらい添付文書に従って使用すること〔重篤な不具合、有害事象が発現するおそれがある〕。
 - ・一時的内固定材料の変形や折損の原因となる要因を下記に示すので注意すること。
 1. 患者の体重及び活動性
 - 一時的内固定材料の不具合発生の危険性は、患者の体重及び活動性が増大するにつれて顕著になる。この両方が金属製一時的内固定材料に余計な応力を与えるので注意すること。
 2. 骨癒合不全、変形癒合、遷延治癒、線維性癒合（偽関節）又は不完全癒合
 - 不完全に癒合した骨折では、一時的内固定材料が変形や折損などを起こすような応力を受ける場合があるので注意すること。
 3. 骨折特徴
 - 多発骨折及び出血を伴う骨折は、治癒に対して有害な影響を及ぼす。荷重訓練、歩行及び活動性に関する術後計画はこれらの要因を考慮すること。
 4. 一時的内固定材料のサイズ
 - 小型のプレート、その他の小型の一時的内固定材料は、大型の一時的内固定材料と同様には負荷に耐えられない可能性がある。小型の材料を設置した患者に対しては、一時的内固定材料は繰り返しの負荷により金属疲労が起り、変形、折損が発生したり、抜け落ちる可能性があることを警告すること。
 - ・チタン合金又はコバルトクロム合金をステンレス鋼と併用しないこと〔ガルバニック腐食（異種金属が電解液中にて、電位差を生じることにより起きる腐食）が発現する可能性がある〕。
 - ※・本品は、MR（磁気共鳴）環境における安全性・適合性の評価は実施されていない。MRI（磁気共鳴画像診断装置）検査において、温度上昇、マイグレーションやアーチファクトが発生する場合がある。
- (2)相互作用（他の医療機器等との併用に関すること）
- ・併用禁忌（併用しないこと）
 - ・弊社が指定した製品以外との併用はしないこと〔専用品で

ないと設計・開発方針が異なるため、適合しないおそれがある〕。

(3)不具合・有害事象

(イ) 重大な不具合・有害事象

- ・骨折部に十分な圧迫をかけられなかった場合、骨質が不良な部位に使用した場合、又は血行が不良な部位に使用した場合に骨癒合不全、変形癒合、偽関節、遷延治癒又は不完全治癒に至ることがある。
- ・一時的内固定材料の変形及び折損。

(ロ) その他の不具合・有害事象

- ・骨接合用材に次の不具合・有害事象が報告されている。
 - ・金属アレルギー
 - ・インプラントの移動
 - ・インプラント挿入時または抜去時の骨折
 - ・スクリューが反対側の皮質を貫通することによる軟部組織の損傷
 - ・骨の短縮
 - ・回旋
 - ・感染
 - ・遷延治癒、骨癒合不全、変形癒合、不完全癒合、偽関節
 - ・局所痛
 - ・インプラントの破損、変形
 - ・骨頭壊死
 - ・骨折
- ・整形外科用インプラント全般に次の不具合・有害事象が報告されている。
 - ・インプラントの破損、折損、ルースニング、摩耗
 - ・インプラント摩耗粉による組織球形肉芽腫
 - ・金属アレルギー
 - ・周囲の神経障害
 - ・感染症
 - ・寛骨臼又は大腿骨への穿孔
 - ・血管系の合併症
 - ・転子部における問題
 - ・偽関節
 - ・筋肉と軟部組織の緩み
 - ・静脈血栓症
 - ・肺塞栓症
 - ・術中及び術後の骨折
 - ・疼痛
 - ・異所性骨化

(4)その他の注意

- ・整形外科用インプラントが機能しなかったり、緩んだり折損する可能性があるという危険性の他に、次のような有害な組織反応や不具合発生の可能性について患者に説明し且つ患者と話し合うこと。
- ・整形外科用インプラントに用いられる種々の金属、ポリマー、化学物質等の物質は、癌や他の有害な生体反応の原因となる可能性があることが知られている。しかし、決定的な証拠はない。癌は軟部組織からインプラントに隣接する範囲を含む骨へ転移する可能性がある。また、手術や診断（生検）の過程やパジェット病の進行により、これらの部位に転移する可能性もある。これらの危険性を患者に伝えること。
- ・組織への異物の埋植は炎症反応を誘発する可能性がある。摩耗粉（金属、ポリエチレン、セラミック、及びセメント粒子）が骨溶解を誘発して、ゆるみを招く可能性があることが報告されている。摩耗粉の形成は関節面の運動による避け難い結果かも知れないが、骨／インプラント界面、又はセメント／インプラント界面でこれら粒子を発生させる可能性がある微小な動きを最小限にするために最適なインプラ

ント固定方法を用いるべきである。

- ・整形外科用インプラント埋植に伴う金属過敏症が報告されている。最も一般的な金属感作物質（ニッケル、コバルト及びクロム）は、整形外科用のステンレススチールやコバルトクロム合金に含まれている。チタンやチタン合金（例えばTitanium Ti-6Al-4V 合金）は、抗原性が著しく低くアレルギーや金属過敏症の病歴のある人に対して使用するよう勧められている。

【保管方法及び有効期間等】

- ・貯蔵・保管方法
常温、常湿にて保管すること。

【主要文献及び文献請求先】

ジンマー・バイオメット合同会社
電話番号：03-6402-6600（代）

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：ジンマー・バイオメット合同会社
電話番号：03-6402-6600（代）
主たる設計を行う製造業者：
Zimmer Inc.、米国